学校評価シート（Ｒ７年度）

東海市立加木屋南小学校	アンケート数 ・児童…422人（4.5.6年生）・保護者…558人 ・地域住民…35人・教員…50人	○ 教育目標	・ 「東海市教育基本方針」の基本理念を受け、「自ら求めて　たくましく生きぬく子ども」を育てることを目指して、「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。	資料等
住　　所　東海市加木屋町泡池２番地 電話番号　0562-34-9303 校 長 名　鯉江　美穂	児童 769 名 32学級（内 特支7）	○ 地域の特色	・ 東海市西部の臨海工業地帯の開発に伴う人口増加により、住宅開発された５５年目を迎える地区である。教育に熱心な家庭が多く、学校にも大変協力的である。また、地域コミュニティの活動は活発である。	

中期目標	今年度の目標	評価方法（アンケート項目）	結果の分析	成果（○）と課題（●）	学校支援協議会 令和８年１月３０日	来年度の改善策
知 自ら学び、最後までやり抜く児童の育成	・学習規範の確立と、国語、算数を中心に基礎基本の徹底を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりを追究する。 ・正しい情報の収集・整理の仕方を身に付けさせ、活用する力の育成に努める。	・授業の内容が分かる。（児童） ・授業は楽しい。（児童） ・先生は熱心に教えてくれる。（児童） ・分かる授業を実践している。（教員） ・楽しい授業を実践している。（教員） ・子どもは授業内容を理解している。（教員）	・昨年度「授業の内容が分かる」と答えた児童は90%を超え、今年度も微増し、高い水準を維持している。また、「授業は楽しい」と答えた児童も、昨年度と同水準の75%であった。→ ・「分かる授業を実践している」教員は、昨年度95%強となったが、今年度も１%強微増した。→ ・「先生は熱心に教えてくれる」と答えた児童は92.9%で1.3%微増した。→ ・「楽しい授業を実践している」教員は昨年度に引き続き５%程度増加した。↑ ・「子どもは授業内容を理解している」と答えた教員は90.4%で1.4%の微減となった。→	○児童にとって「分かる授業」「楽しい授業」を目指して現職教育等を通じて授業力向上を図ってきた。昨年度と同等の数値であるということは改善の余地があり、本文である「授業で勝負」をいっそう意識していく必要がある。 ○「分かる授業」について児童の思いと教師の捉えが、一致してきており、個に応じた指導、個のめあてや振り返りに焦点をあてて努力してきた成果であると言える。 ●児童が「熱心に教えてくれる」と答えることは、教員の熱意が伝わっていると感じるが、楽しくない児童、分からない児童が依然として存在するため、支援や指導を考える必要がある。 ○児童に「めあて」と「振り返り」を意識させた昨年度から取組を基に、今年度は発達段階別に目標を設定し、児童の主体性を引き出すための手だてを検証してきた。チーム加南を教職員が意識して、教職員も互いに学び合う集団になってきた。ただ、「児童の主体性をさらに引き出し、学びの楽しさを味わわせる」ために、さらに実践を重ねていく必要がある。	・子どもたちが学びの主体者として「授業が楽しい」「授業の内容がよく分かる」と感じられる授業の実践を先生方が努力してこられていることはアンケートの結果を見るとよく分かる。子どもは教えられるだけの受け身の授業ではなく、自分たちが主体となって学ぶことでより多くのことを学び、知りたいこと、学びたいことを学ぶ力を身に付けることができるとよりいっそう学ぶことが楽しくなると思う。今後も楽しい授業の実践に努めていただきたい。ただし、先生方は楽しい授業を実践していると96.8%の方が回答されているが、子どもはその授業を楽しいと感じているのは74.3%と20%超のずれがあるため、対応策を考えたい。 ・教師の熱心な指導が十分伝わっていると思う。今後もチーム加南を意識され児童一人一人の寄り添った指導を継続していただきたい。 ・「教職員間の相互理解や信頼関係ができている」では、「よくあてはまる」が倍近く増加している。教職員間で信頼関係が深まり児童一人一人の課題や特性が共有されていると感じる。 ・児童は「先生が熱心に教えてくれる」と先生に対する信頼度の評価が上がっている。この好循環を次年度へつないでいけるとよい。 ・児童の授業への積極性は感じるので、タブレット端末を更に活用し授業を楽しめる環境を高めていければよいと感じる。	・現職教育の研究主題「主体的に学習に取り組み、学びの楽しさに気付くことができる児童の育成」－発達段階に応じた「めあて」と「振り返り」の充実を目指して－」に取り組み、特に「振り返り」において、授業者の共通理解が図られてきたため、児童の主体性をさらに引き出す手だてを考えていく。 ・ＩＣＴ活用については、教師相互のＯＪＴで日常的に情報交換を進めているが、次年度はさらに情報担当が中心となり、新規導入されるのものに対応できるよう引き続き校内の連携体制を整える。 ・児童の「授業は楽しい」「学校が楽しい」を維持するために教職員一同「チーム加南」で児童に寄り添い、充実感をもたせる学習や諸活動の実践を進める。 ・中高学年の一部教科に教科担任制を取り入れ、深い教材分析で授業を充実させることを維持し、道徳教育については発達段階に応じた展開を、総合的な学習の時間については実態を踏まえた改善を図る。
徳 礼儀正しく、思いやりのある児童の育成	・学校生活全般を通して道徳教育に取り組み、心豊かな児童の育成に努める。 ・加木屋南小学校子どものいじめ防止基本方針や東海市こどものいじめ防止サミットの取組をうけた活動に従って、いじめを許さない児童の育成に努める。	・あいさつをすすんですることができる。（児童） ・廊下は静かに歩いている。（児童） ・社会のルールを守っている。（保護者） ・社会のルールを守っている。（地域） ・子どもたちはルールを守って学校生活を送っている。（教員） ・学校が好きである。（児童） ・よい学校だと思う。（保護者） ・よい学校だと思う。（地域） ・いじめが起こらないためには、どうしたらよいか分かっている。（児童） ・学校は、いじめの未然防止や早期発見のために、積極的に取り組んでいる。（保護者） ・いじめの未然防止や早期発見のために、積極的に取り組んでいる。（教員）	・「あいさつをすすんですることができる」児童は83%で1.3%微増した。また、「廊下は静かに歩いている」児童は昨年度とほぼ同じ81.5%だった。→ ・子どもたちの規範意識は、教員が90.3%で昨年度より11%増、保護者も1.4%の微増で91.6%、地域住民も13.7%増の92.9%で高水準を維持している。↑ ・「学校が好き」と答えた児童は82.7%で3.5%減少した。↓ ・「よい学校だと思う」保護者は89.9%で1.5%微増、地域住民は昨年度に引き続き100%だった。→ ・「いじめの未然防止方法が分かっている」と答えた児童は90.4%で0.7%の微減だった。→ ・「学校はいじめの未然防止や早期発見に積極的に取り組んでいる」と答えた保護者は4.2%増の54.4%だった。↑ ・「いじめの未然防止や早期発見のために、積極的に取り組んでいる」と答えた教員は96.8%で１%増加した。→	○「あいさつ」については、児童会企画でいじめ防止キャラクター「いじめにゃい」の活用をはじめ、民生・児童委員との共同の「あいさつ運動」を実施するなど同水準を保持できている。また、児童のルールを守る意識も一定程度定着している。 ○規範意識について、教員、保護者、地域住民三者とも、昨年度落ち込んだ数値を回復させている。すべて高水準の数値にまで改善した。日常生活の中で「安心と安全」を守る意識、他者尊重を育む意識を育てる指導について、今年度の取組を継続する。 ●保護者や地域住民の「よい学校」だとの回答に安堵するが、一部児童が「好きではない」ことに焦点をあてて、日々の相談活動を充実させていく必要がある。児童の生き生きとした生活を実現していくためにさらに工夫が必要である。 ●「学校はいじめの未然防止や早期発見に積極的に取り組んでいる」と答えた保護者以外に「分からない」と３割弱が回答しているが、教員の９割強の回答と差がある。実践内容および日々の対応は、全体に周知できるものを取り上げてｅメッセージ配信などで伝えていく必要がある。 ○いじめ対応については、市の様式変更に伴い、生徒指導部やいじめ対策委員会などで即時対応や担任以外でのチーム対応等を学んできたため、いっそう児童に還元できるよう努める。	・教師アンケートの「加木屋南小学校は誇れる学校である」という項目の回答が「よく当てはまる・やや当てはまる」で100%になっており、自分の働く学校に誇りをもっている先生に教えてもらえる子どもたちは幸せだと感じた。今後も誇りをもち続けられるように、よりよい学校づくりを進めてもらいたいと思う。また、そういう学校になるように学校支援協議会としても協力をしていきたいと思う。ただし、教師・地域住民の回答が100%ポジティブなものであったが、児童・保護者の回答には「あまり当てはまらない・全くあてはまらない」という意見も含まれているため、どういう部分に不満や不安があるのかをしっかりと検討し改善していくべきである。 ・いじめ防止対策については、昨年同様その取組について児童と教師は理解し積極的な取組も行っていると評価できるが、保護者や地域住民に対してはその取組が見えづらいと推測できるため、改善の余地がある。外部への情報発信は難しい部分も多いが、せっかくの取組を知ってもらえる機会を増やせるとよいと思う。 ・挨拶をすすんでできることが評価が今和６年度よりやや後退だが、民生・児童委員や学校内のあいさつ運動でさらに声掛け活動がんばりを期待したい。 ・明るく挨拶する雰囲気はつくられていると思う。恥ずかしがりの子もいる。児童は挨拶しないといけないと感じていることは分かる。「雰囲気」が大変重要だと考えるため、いつも児童の周りが明るい雰囲気だとよい。結果的に、いじめを防いだり、よくない行いが悪いことだと児童が考えることにつながる。	・児童のアイデアを学校諸活動に生かすため、「あいさつ運動」や委員会のキャンペーンなどを特別活動指導部、学習指導部、生活指導部の取組が横断的になるようにし、児童に充実感をもたせるとともに、児童の啓発活動を充実させていく。 ・児童の「安心と安全」を守るために、地域の声に耳を傾け、生活指導部を中心に交通安全や正しい公園の利用など、次年度も啓発活動を継続する。 ・今年度も入権週間の取組、総務委員会の加木屋中学校区「いじめ防止サミット」、毎学期の各担任による教育相談等、いじめ防止について多岐にわたる活動を展開している。また、市の報告様式の変更を受け、いじめ認知に向けた改善も行っている。年間の取組が保護者に伝わるよう学校だより掲載やｅメッセージ配信で情報発信を継続する。 ・「チーム加南」を意識した教職員の連帯感を児童と教職員との信頼関係にも生かす。教職員は児童の様子をよく観察し、日常の変化を見逃さず、早期かつ丁寧な対応を維持するとともに、日常のコミュニケーションや会話を大切にする。
体 健康な心と体をもち、丈夫な児童の育成	・基本的な生活習慣を身に付けさせ、心身ともに健康で安全な生活を営みながら、集団生活の中で自他ともに向上しようとする意欲を高める。	・早寝早起きなど規則正しい生活をしている。（児童） ・子どもには毎朝、朝食を食べさせている。（保護者） ・交通安全に気を付けている。（児童） ・学校は子どもたちの安全に配慮した取組をしている。（地域） ・子どものことについて適切に相談に応じている。（教員） ・先生は誰に対しても公平に意見を聞いてくれる。（児童）	・「規則正しい生活をしている」児童は69.5%で0.4%微減した。→ ・子どもには毎朝、朝食を食べさせている保護者は97.8%で1.7%微増だった。→ ・「交通安全に気を付けている」児童は97.2%、0.5%微増で高水準を維持している。→ ・「学校は子どもたちの安全に配慮した取組をしている」と答えた地域住民は89.3%で2.3%の微減だった。→ ・「適切に相談に応じている」教員は100%になり6.2%増加した。↑ ・「先生は誰に対しても公平に意見を聞いてくれる」と答えた児童は84.8%で4.2%減少した。↓	○家庭の教育力のおかげで朝食をほとんどの児童が摂ってから登校しており、毎日元気に過ごすことができているが、「規則正しい生活をしている」児童が７割程度であるため、家庭の協力を得る方法を模索する必要がある。 ○ＰＴＡ支部役員の皆様の見守りのおかげで、児童の交通事故がない一年を過ごすことができた。今年度登校時間を遅らせたり時計係を新たに設定したりした場面でも地域の協力をいただき、児童の高い安全意識に結び付いている。今後も地域での安全な生活ができるよう通学団指導や生徒指導を中心に指導を継続する。 ○ＫＹＴ登校やシェイクアウト訓練が地域の皆様にも浸透し、避難訓練や大雨時の対応等も新たな方策を伝えてきたため、学校の取組はおおよそ理解されている。公園や施設利用のモラルを今後も適宜指導していく必要がある。 ○教職員が、児童に寄り添う基本姿勢をもち、より良い関係を築くことを個々に心がける必要がある。	・児童のアンケートの「早寝早起きなど規則正しい生活をしている」という項目に対する回答を見ると「よく当てはまる・やや当てはまる」で79.5%という結果であり、朝食以外の部分の生活習慣ではまだまだ見直すとよい点があると考えられる。ゲームや動画の影響も大きいと考えられるため、家庭での対策とともに学校でも子どもとともに自分の生活の在り方について考えていく必要があると考える。 ・教師アンケートの「子どものことについて適切に相談に応じている」の回答が「よく当てはまる・やや当てはまる」で100%になっている点で、先生方が努力されている姿勢が伺え、今後もこの まま100%が維持できるように努めていただきたいと思う。ただ、保護者アンケートの「先生は相談しやすい」の回答を見ると「あまり当てはまらない・全くあてはまらない」という回答も13.1%あるため、対応の仕方や今後も考えていく。 ・大半の子どもたちは楽しく過ごせているのだと思うが、「あまり当てはまらない・全くあてはまらない」と答えている子どもたちがいることにも目を向け、不登校対策や子どもの居場所づくり等も考えていく必要があると考える。子どもたちが安心して安全に楽しく過ごせる環境を整えるために、子どもたちとしっかり向き合えるマンパワーも必要と考えるため、人材確保も課題だと考える。引き続き行政に訴えていきたい。 ・交通安全は命を守る上でとても大切だということを、学校や家庭でその意味が理解できるよう、分かりやすく伝えることが重要だと感じる。 ・ＫＹＴ登校やシェイクアウト訓練は継続が大切なので、引き続き積極的に指導していただきたい。 ・児童がもっと運動とふれあう機会が増えないか。運動できる子、できない子の差が大きい。できない子なりに体を動かす機会が増えれば理想的だ。	・児童主体の活動「はきものそろえ」や「あいさつ運動」の活動を支援するとともに、児童の規範意識を維持するため、集い、昼の放送、学校だより、ｅメッセージ配信等を活用し、規則正しい生活について、交通安全について等の指導内容の徹底を図る。個別の事案に関しては、家庭と連携し改善に努める。 ・各委員会のキャンペーンがさらに成果を得られるよう年間計画を作成し、児童が意識できるよう改善する。 ・「かぜ予防週間」「生活リズム点検」等、児童の健康維持のために保健安全指導部で感染症対策としてよい習慣が身に付くよう引き続き取り組む。 ・ＫＹＴ登校、シェイクアウト訓練を継続し児童の安全意識を維持できるようにするとともに、来校してくださる方への名札着用や来校者名簿への記入を徹底し、児童の安全確保を図る。 ・情報セキュリティの観点から児童にはタブレット端末の取り扱い方を導入時の１年生にＩＣＴ支援との授業により各担任より指導する。教職員にはカメラおよびＳＤカードの取り扱いを情報担当から徹底させる。
地域連携 開かれた信頼される学校づくり	・ホームページや各種通信を活用して積極的な情報発信に努め、学校と家庭・地域の双方向の情報交換を図る。 ・学校支援協議会と連携し、地域との関わりをより一層深める。 ・心身ともに健康で、子どもと向き合う教職員のために、業務改善に向けた取組を推進する。	・教育活動に満足している。（保護者） ・依頼があれば協力したい。（保護者） ・学校は地域の活動や行事によく協力している。（地域） ・保護者に積極的に学校の様子を知らせている。（教員） ・学校からのお知らせにより、学校の様子が分かる。（地域） ・学校からの通信（たより）やホームページでは、学校や子どもたちの様子がよく分かる。（保護者）	・「教育活動に満足している」とした保護者は83.7%で4.5%増加した。↑ ・「依頼があれば協力したい」と答えた保護者は81%で昨年度と同水準である。→ ・「学校は地域の活動や行事によく協力している」と答えた地域住民は96.4%で13.1%増加した。↑ ・「保護者に積極的に学校の様子を知らせている」教員は93.5%で６%増加した。↑ ・「学校からのお知らせにより学校の様子が分かる」と答えた地域住民は85.7%で10.2%減少した。↓ ・「学校からの通信（たより）やホームページでは、学校や子どもたちの様子がよく分かる」と答えた保護者は81%で1.5%微減した。→	○教員の働き方改革に係る取組等への保護者の理解は概ね得られていると捉えることができる。ただ、１割の保護者が本校の教育活動に満足していないことも受け止め、豊かな教育活動のために工夫が必要である。 ○コミュニティや市民館の講座や教室に多数の児童が参加し、充実した時間を過ごしたことが伺える。今後も、学校としてもＰＲ等に協力する。 ●ｅメッセージ配信による双方向の連絡方法が浸透し、個別の情報をこまめに担任から伝達してきたが、地域へは学校だよりのみの配信となっていることで、数値が減少したと考える。引き続き、学校支援協議会委員や民生・児童委員、ボランティアの皆様に「校外への お知らせ」を受け取れるｅメッセージに登録していただくよう働きかける。 ●学校だよりと学年だよりを統一し、情報発信を一元化して行ってきたことを、情報減になっていると感じる保護者もいる。ｅメッセージ配信にてタイムリーにその都度伝えており、月に一度程度参観する機会も設けている。学校は常に開かれていることも情宣していきたい。	・教師アンケートの「電話の受け答えや来校者への対応は明るくはっきりした対応を心掛けている」の回答が「よく当てはまる・やや当てはまる」で100%になっており、先生方が努力してくださったことが見て取れるが、地域住民アンケートの「学校の先生は、電話の受け答えや来校時の対応は明るくはっきりした対応をしている」の回答に「あまり当てはまらない」という回答が7.1%含まれている点も見過ごさず、地域の方に気持ちよくご協力・ご助言いただけるように今後も努めていただきたい。 ・今年度も学校支援協議会が主体となって地域の方にも呼びかけ、学校支援ボランティア活動を行ってきた。ボランティアメンバーの方は楽しんで参加してくだり、加木屋南小学校の力になりたいと思ってくださっていることが伝わってきたので、今後も改善できる部分は改善しつつ継続して活動していきたいと思う。 ・学校は積極的に情報発信を行っているが、情報の受け止め方に差があるため、今後は受け手の立場で工夫するとよい。 ・地域において加木屋南小学校は、より学校と誰もが思っている。地域の行事等に積極的に参加をいただいており感謝。子ども会がなくなった関係で学校からの情報伝達のお願いで地域連携を今後もお願いしたい。 ・教員の働き方改革について保護者への理解も高まっているように感じる。また、ｅメッセージ配信も浸透してきたので引き続き学校の様子を分かりやすく伝えていくと保護者の安心感も得られるのではないかと感じる。	・ＰＴＡボランティア、学校支援協議会ボランティア等、保護者や地域の協力体制が大変充実している。また、地域の敬老会や自治会の方々に登下校の見守りを行っていただいている。教育活動がより豊かで充実したものになるよう学校を支えていただいている皆様の充実感と学校のニーズを精査し、工夫していく。 ・今年度、市の校務支援事務や教員業務支援員により働き方改革に係る取組が一部進められた。校内のさらなる業務効率化に向け、引き続き環境整備等をバランスよく進めていく。 ・校長、教頭が中心となり、コミュニティと連携し、学校からの情報発信に努める（コミュニティ運営委員会や市民館運営委員会への参加、地域行事への参加、学校だよりやホームページ、ｅメッセージ配信等）。 ・各学年の取組を一元化された「学校だより」やｅメッセージ配信を活用して情報発信に努める。適時適量の情報発信により保護者の安心感が得られるよう努める。